

『光る君へ 9』

めぐあ
廻り逢ひて 見しやそれとも わかぬまに 雲がくれにし 夜半の月かな

むらさきしきぶ
紫式部

【現代訳】

久しぶりに会ったのに、雲に隠れる夜中の月のようにあっという間に行ってしまったよ。

ことばがき
詞書には幼馴染に会ったときに詠んだと書いてありますが、読者はいろいろな出会いや別れを想像できます。ドラマのように、誰にも言えない道長とのひとときの叶わぬ恋の歌かもしれません。または、亡くなった人の幻を見たような歌かもしれません。

道長は紫式部を娘の彰子の家庭教師にしたり、源氏物語の執筆を支援したり、紫式部の父を越前守に登用したり、ただならぬ心のかけようで、2人の歌のやりとりからも恋仲だという説があります。尊卑分脈という本に、紫式部は道長の妾とありますが、信憑性の程はわかりません。紫式部は母や弟や夫を早く亡くしています。雲隠れとは死を意味する言葉でもあり、源氏物語の雲隠れという帖は、題名だけ残って本文がありません。ドラマでは、「幻を追いつけたかったから書かなかった」と紫式部は言いましたが、定かではありません。

山陽小野田かるた協会 久保 久美子